

2018年7月7日(土)10:00-16:00

防災ゲーム Day2018in そなエリア東京

実施報告書

主 催

東京臨海広域防災公園管理センター
一般社団法人防災教育普及協会

後 援

東京都教育委員会
江東区

一般社団法人防災教育普及協会

<http://www.bousai-edu.jp/>

2018年7月

1. はじめに

相次ぐ自然災害を受け、防災教育への期待と関心はますます高まっています。その反面、具体的なノウハウの学習や実践、効果の検証などに課題も残されています。本協会では、こうした課題の解決に向けて様々な分野の専門家・有識者、実践者の知見を結集し、防災教育の普及啓発に取り組んでおります。

この度、2016年度、2017年度の実施に引き続き、東京臨海広域防災公園管理センター様のご協力、東京都教育委員会様、江東区様のご後援を得て、防災教育教材やプログラムの普及啓発を目的としたイベント『防災ゲーム Day2018in そなエリア東京』を実施しました。

2. イベント概要

名 称 : 防災ゲーム Day2018in そなエリア東京

日 時 : 2018年7月7日(土) 10:00~16:00

会 場 : 東京臨海広域防災公園そなエリア東京

(アクセス: ゆりかめも「有明」駅徒歩2分)

内 容 : 防災ゲーム、教材、資料の展示及び体験型講座

参加費 : 無料

参加申込 : 不要

主 催 : 東京臨海広域防災公園管理センター、一般社団法人防災教育普及協会

後 援 : 東京都教育委員会、江東区

協 力 : 防災教育チャレンジプラン実行委員会、災害救援ボランティア推進委員会



(イベントチラシ)

2.1 イベントの成果

2016年、2017年に引き続き3回目となる今回は、2017年の35種類を上回る50種類以上の防災ゲームやプログラムを紹介しました。うち8つの防災ゲームや教材についての体験講座を実施し、各回約20～30名が参加しました。また、平田直・防災教育普及協会会長（東京大学地震研究所教授）による特別講義を実施し、約50名が聴講しました。

イベント全体の参加者は親子連れなどを中心に約870名となりました。2016年から継続して参加している出展団体に加え、新規の出展団体が増えたことにより、出展団体同士の交流の機会にもなりました。また、新たに参加者と出展者がコミュニケーションをはかるきっかけとなる「デジタル&コミュニケーションスタンプラリー」を実施しました。

参加者からは「様々な防災ゲームや教材について知ることができる機会がないので、今後でも続けてほしい」、「自分の学校や地域に応じた防災ゲームを知ることができた」、「自分たちで作ったゲームも出展したい」といった声が寄せられました。

2.2 イベントの内容

◆体験会及び出展の一覧

(1) 体験会 <10:00～16:00> 2階レクチャールーム

- ・ぼうさいカルタ（法政大学チーム・オレンジ）
- ・津波からの避難計画検証+防災教育のための「キツネを探せ！体験講座」（一般社団法人子ども安全まちづくりパートナーズ）
- ・ダイレクトロード「内陸の町」（樋口貴洋・ゲーム開発者）
- ・ツクモル探検隊（ツクモル）
- ・ひなんくんれんゲーム（NPO 北海道防災教育研究センター赤鼻塾）
- ・災害医療クエスト&災害医療タッチの利用方法（産業技術総合研究所）
- ・EVAG 豪雨災害編（国土防災技術株式会社）
- ・復興まちづくりゲーム（東京大学大学院工学系研究科廣井研究室）
- ・防災×宝さがし（国土防災技術株式会社・RoundTable 共同企画）

(2) 展示紹介 <10:00~16:00> 1階エントランス、2階踊り場ほか

- ・ラグーサ共和国（清水鉄矢・ゲーム開発者）
- ・そなえるドリル、そなえるカルタ（三菱地所レジデンス株式会社）
- ・VR 避難体験（株式会社理経）
- ・MAPed Games（NPO 法人高齢者住まいる研究会）
- ・減災アクションカードゲーム（東北大学グローバル安全学トップリーダー育成プログラム）
- ・このつぎなにがおきるかな（国土交通省）
- ・小中学生向けマイ・タイムライン～逃げキッド～ほか（下館川河川事務所）
- ・カンカン塔のみはりばん（TOA 株式会社）
- ・気象庁ワークショップ「経験したことのない大雨 その時どうする？」（気象庁）
- ・<準備中>（中央大学チーム防災ほか）
- ・学校向け教材「トランプで学ぶ自助・共助・公助」（防災教育普及協会）
- ・学校向け教材「避難誘導に協力しよう！」（防災教育普及協会）
- ・防災学習ツール（東京臨海広域防災公園）
- ・教科横断型の防災教育キット（神戸学院大学防災・社会貢献ユニット）
- ・障がい者の災害対策チェックキット（国立障害者リハビリテーションセンター）
- ・災害情報&コミュニケーション演習-DICE(ダイス)-（災害救援ボランティア推進委員会）
- ・『被災』疑似体験ワークツール-SaTa-Sen(サタセン)-（みえ防災市民会議）
- ・逃げ地図ワークショップ（一般社団法人子ども安全まちづくりパートナーズ）
- ・減災まちづくりMAPワークショップ（東京大学工学部 廣井研究室）
- ・帰宅困難者支援施設運営ゲーム KUG（東京大学大学院工学系研究科廣井研究室）
- ・ジュニア向け災害医療教材「災害医療クエスト」（産業技術総合研究所）
- ・紙ぶるるほか「ぶるるくんのじこしょうかい」より（名古屋大学福和研究室）
- ・防災教育教材「避難行動訓練 EVAG（豪雨災害編）」（国土防災技術株式会社）
- ・災害対応カードゲーム教材「クロスロード」（チームクロスロード）
- ・防災すごろくゲーム「GURAGURA TOWN」（NPO 法人プラス・アーツ）
- ・防災カードゲーム「なまずの学校」（NPO 法人プラス・アーツ）
- ・防災カードゲーム「シャッフル」（NPO 法人プラス・アーツ）
- ・避難所運営ゲーム「HUG」（静岡県）
- ・災害状況イメージトレーニングツール「目黒巻」（東京大学生産技術研究所目黒研究室）
- ・学校向け教材「うさぎ一家の防災グッズえらび」（防災教育普及協会）
- ・学校向け教材「災害状況を想像する力を身につけよう」（防災教育普及協会）
- ・学校向け教材「災害時のコミュニケーションを学ぼう」（防災教育普及協会）

- ・学校向け教材「災害時のトイレアクションを考えよう」(NPO 法人日本トイレ研究所)
- ・幼児向け防災教育用カードゲーム「ぼうさいダック」(一般社団法人日本損害保険協会)
- ・小学生向け防災教育プログラム「ぼうさい探検隊」(一般社団法人日本損害保険協会)
- ・防災教育教材『カードで学ぶ非常持出袋』(神戸学院大学防災・社会貢献ユニット)
- ・iPad 防災教育アプリ「スキナのセレク島」シリーズ(パステルハートプロジェクト)
- ・「地域における防災教育の実践に関する手引き」(内閣府防災担当)
- ・東京防災及び防災ノート小学校～高校版(東京都)

◆専門家による特別講義&防災ゲームコンシェルジュ

当日は防災ゲームや教材、プログラムの体験に加えて専門家による特別講義や防災ゲーム、教材、プログラムに関するコンシェルジュカウンターの設置を行います。防災ゲームや教材をより有効に活用するための知識習得から気軽な相談まで対応します。

(1) 特別講義 <12:50~13:30>

『首都直下地震に関する短時間の特別講義です。』

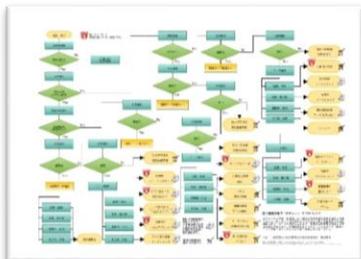
講師：一般社団法人防災教育普及協会会長・東京大学地震研究所教授 平田 直
※席に限りがございます。

(2) 防災ゲームコンシェルジュ <終日>

『ご要望に応じて、オススメの防災ゲームや教材を紹介します。』

コンシェルジュ：一般社団法人防災教育普及協会事務局長・防災教育コーディネーター
宮崎 賢哉

- ※ ご相談は先着順に承りますが、対応にお時間をいただく場合もございます。
- ※ 当日、展示・紹介していないゲームや教材についてのご相談も承ります。
- ※ 当日、コンシェルジュカウンターで配布する各種資料は、事前にダウンロードして当日お持ちいただくことができます。より詳しく相談したい方はご活用ください。



(防災教材活用ガイドチャート)

(防災教育実践サポートシート)

3. イベントのようす

イベントは東京臨海広域防災公園管理センター 2 階のレクチャールームにて『体験講座』を開催しました。また 1 階エントランスホールと 2 階展示エリアにて『展示・体験コーナー』を設置しました。

3.1 体験講座

◆防災クイズカルタ（指導：法政大学チーム・オレンジ）

防災クイズカルタは、一般的なカルタのように防災クイズが読み上げられたらそのクイズに応じた札を取ります。札は正解の札だけでなく、間違いやすい札も混ざっているため、参加者は早さだけでなく、正確に答えを探すことが求められ楽しみながら防災を学びました。



◆津波からの避難計画検証＋防災教育のための「キツネを探せ！体験講座」（指導：一般社団法人子ども安全まちづくりパートナーズ）

キツネを探せ！では、キツネ面に装着されたカメラから参加者の持つスマートフォンに目線映像が配信されます。映像を頼りにキツネを探す、遊びながら津波等からの避難経路を学べるプログラムです。参加者は実際に館内を移動しながらプログラムを体験しました。



◆ダイレクトロード（指導：樋口貴洋・ゲーム開発者）

ダイレクトロードは、バラバラの情報を共有して全体像を把握する「ジグソーメソッド」という学習方法を用いて神戸市消防局職員の方が開発したカードゲーム型の防災訓練教材です。参加者は災害対応に必要な行動や考え方をゲーム形式で学びました。



◆ツクモル探検隊（指導：ツクモル）

ツクモル探検隊は、「災害島」から様々なアイテムカードをつかい、参加者同士で競い助け合いながら進んでいくボードゲームです。参加者は限られたアイテムの使い方を考えながらゲームを進めることで、災害時の助け合いなどを学びました。



◆ひなんくんれんゲーム（指導：NPO 北海道防災教育研究センター赤鼻塾）

ひなんくんれんゲームは、子どもたちが楽しみながら避難行動や避難支援について学ぶことができるゲームです。参加者は会場内を移動しながらゲームを体験しました。



◆災害医療クエスト&災害医療タッチの利用方法（指導：産業術総合研究所）

災害医療クエスト、災害医療タッチはスマートフォンやタブレットを用いたAR（拡張現実）で災害医療を学ぶことができます。参加者は実際に参加者がタブレットなどを用いてゲームの活用法を学びました。



◆EVAG 豪雨災害編（指導：国土防災技術株式会社）

EVAG 豪雨災害編は、高齢や障害、傷病、妊産婦など様々な事情をもった仮想のまちの住民となり、台風からの避難行動や避難所での課題について学ぶゲームです。参加者はゲームを用いる際のポイントなどを教材を使いながら学びました。



◆復興まちづくりゲーム（東京大学大学院工学系研究科廣井研究室）

復興まちづくりゲームは、被災した街を想定したボードやカードを用いて、様々な課題を解決しながらクリアを目指します。参加者はボードゲームで復興過程について学びました。



◆ 1階展示エリア

1階展示エリアでは、ラグーサ共和国（防災ボードゲーム）、避難体験VR、EVAG 豪雨災害編、MAPed Games、そなえるドリル・そなえるカルタなどの展示体験を実施しました。屋外エリアでは「防災×宝さがし」も実施しました。



◆ 2階展示エリア

2階展示エリアでは、災害医療クエスト・災害医療タッチ、ツクモル探検隊、防災紙芝居、防災クイズカルタや防災パペット劇場、ダイレクトロード、音の防災シアター、その他各種資料・教材の展示紹介などを行いました。



◆ 特別講義・コンシェルジュカウンター

12:50からは2階レクチャールームで首都直下地震に関する特別講義を実施しました。また防災教育・防災ゲームに関する相談に応じる「防災ゲームコンシェルジュ」を常駐させ、参加者からのご相談に対応しました。



◆デジタル&コミュニケーションスタンプラリー

参加者と出展者がコミュニケーションをとるきっかけとして、出展者が持つQRコードをスマートフォンで読み込むとスタンプを押すことができる「デジタルスタンプラリー」を実施しました。また、児童生徒やスマートフォンをお持ちでない方は出展者のサインをもらうことでスタンプの代わりとしました。スタンプラリーで指定数を集めた方には、記念グッズを配布しました。



3.2 出展者・来場者様からのご意見（抜粋）

本イベントにご出展いただきました各団体の皆さま、来場者様からのご意見を紹介します。

- ◆ これだけの規模のイベントを実施するのは、主催者も出展者も大変な苦勞があったと思うが、防災ゲームや教材をいろいろ体験できる機会はあまり無いので、今後も継続してほしい。
- ◆ 日本語がわからない人でも学べる教材や、障害者向けの教材もあって驚いた。
- ◆ 防災ゲームについて名前だけは聞いていて使ってみたいと思っていたが、機会がなかった。実際に物を見たり、体験したりできる今回のイベントに参加できてよかった。
- ◆ 自分たちでも防災ゲームを制作したが、広報が難しい。来年も行うようであれば、ぜひ出展させてほしい。
- ◆ 学生団体が教材やゲームを作っていることに驚いた。若い人たちの力を地域の防災にも活かしてほしい。
- ◆ 文字や絵が小さかったり、ルールが複雑すぎたりすると高齢者はついてこれない。イラストだけで分かるカードゲームなどもあったので、今度の防災訓練で使ってみたい。
- ◆ 「ダイレクトロード」のことを知り、自分の学校でもオリジナル版を作ってみたくて来た。実際に作った方からお話を聞いたり、体験したりできてよかった。

4. おわりに

『防災ゲーム Day』は、様々な団体や個人が開発・公開・販売している防災ゲーム、教材やプログラムなどを集め、多くの方に体験していただくこと、知っていただくことを目的として生まれたイベントです。特に阪神・淡路大震災以降、様々なゲームや教材が開発されていますが、ごく一部のゲームや教材、プログラムを除いて知られていないものも数多くあります。

本協会では、「防災教育チャレンジプラン※」等と連携しながら、優れた実績や事例を持つ防災ゲーム、防災教育教材やプログラムについて、イベントや各種研修を通じてより広く普及啓発に取り組みます。本イベントが、既に防災ゲーム等を開発されている方々や、使用してみたいとお考えの方々はもちろん、これから新たなゲームや教材、プログラムを開発される方々にとって学び多き場となることを期待しています。

最後に、本イベント開催にあたりご尽力いただきました東京臨海広域防災公園管理センター様、ご後援いただきました東京都教育委員会様、江東区様、出展・指導にご協力いただきました皆様、ご参加いただいた皆様に、厚く御礼申し上げます。

今後とも防災教育の普及啓発にご協力賜りますよう、お願い申し上げます。

※防災教育チャレンジプラン実行委員会による、全国の防災教育を支援する取り組み。

<http://www.bosai-study.net/top.html>

2018年7月

【一般社団法人防災教育普及協会】

〒102-0073

東京都千代田区九段北 1-15-2

九段坂パークビル 3階

TEL.03-6822-9903

<http://www.bousai-edu.jp/>



一般社団法人
防災教育普及協会
www.bousai-edu.jp